

萩原龍夫著

「中世祭祀組織の研究」

石井 左 近

最近進んで、お勧めしたい良書が刊行されました。それは東京学芸大学助教授萩原龍夫博士の近著「中世祭祀組織の研究」で、神社関係の諸氏は勿論のこと、広く民俗学・歴史学・郷土史学等を研究されている多くの方々には、是非一読されることを推奨する所以は、本書の内容が著者の多年に亘つて、各地を広く踏査された得難い資料を要領よく網羅編述され、文部省学術研究完成果刊行費補助金によつて刊行されていることでも、私のごときものゝ書評するまでもない、価値の高い著述であることは明瞭であろう。

書中には本県に於けるものが相当多く載せられている。越前では朝日天王社・足羽社・石徹白・一乗谷・大塩保・河口荘・北ノ荘・神明社・杵見・坂井郡田籬・鯖田

国富庄・坪江荘・平泉寺・水落神明社等々であり、若狭では上下宮・税所今富名・多烏浦・太良荘等々の旧事を述べ、又、若狭国神明帳・同惣田数帳・天文三年若狭国神名帳・同管内社寺由緒記等の記事が表示され、更に弘治年代以前及び永祿元年より寛永九年までの宗源宣旨神道裁許状等授与一覽表があり、附録には中世宮座一覽表もあり、巻末には索引を附して至便である。東京都文京区本富士町吉川弘文館発行定価二、四〇〇円。

石井 「中世祭祀組織の研究」紹介